

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773302159		
法人名	(株)小池介護サービス		
事業所名	グループホーム天下茶屋		
所在地	大阪市西成区天下茶屋2-18-32		
自己評価作成日	平成30年3月1日	評価結果市町村受理日	平成30年6月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成30年5月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様ひとり一人の楽しみを尊重し、利用者様が主体の生活がグループホームの姿と考え、その人らしい暮らしができるよう支援しています。家族様からも安心していただけるよう日々の状況を報告しています。研修等も行いケアの質の向上に努め、常に気づきを持ち介護にあたることを心がけています。医療・介護と連携し緊急時も適切な対応ができる体制を作っています。地域との交流を大切にし、地域の方がボランティアで参加していただける関係を作っています。ホームの行事には、ご家族様のご協力も頂き行事を行っています。特別に構えず、その人らしく普通に暮らしてもらっていることが自慢です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設13年目を迎えている事業所は管理者・主任及び職員の異動はほとんどなく、職員間のコミュニケーションは良く、働きやすい環境を築いている。利用者は馴染みの職員と一緒に日課のように散歩や日光浴を行ったり、手作りの食事に関する一連の作業を出来る範囲で手伝い、利用者1人ひとりがその人らしく地域で暮らし続けられるような笑顔がいつぱいのホームである。管理者は町会の班長を担い、自治会に出席し、地域の行事や防災訓練等に参加し、地域との連携を築くと共に異業種からの男性職員を地道に育て、各ユニットの主任として配置するなどリーダーシップを十分に発揮している。地域包括ケアの構築に向け、職員の資格取得を積極的に築いてきたホームは地域の基幹として、高齢者を対象とした認知症対応の相談事業の活躍がより一層期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を明示し、管理者・職員は共有し意識づけていくため、会議等で話し合い実践につなげています。	法人のグループホーム共通の理念を掲げ、分かり易く玄関入口に掲示している。地主等地域の要望をきっかけに事業所を開設した。利用者がその人らしく地域で暮らし続けられるように職員は共有し、笑顔を大切に実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通し、地域との交流を深め自治会に加入し、自治会行事の参加やホームの行事にも参加していただき地域とのつながりを大切にしています。	自治会に加入し、管理者は班長を担い、自治会に出席している。ホームは地域の夏祭りや清掃活動等地域の行事に積極的に参加している。ボランティアを受け入れたり、地域の南海地震想定の大掛かりな防災訓練に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で、認知症研修の報告をし、認知症の方の理解を深めていただけるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、地域包括支援センター職員・自治会長・家族様・利用者様の参加のもとおむね2ヶ月に1回開催しています。	書類開催も含め年6回開催している。外部より家族・自治会代表・地域包括支援センター職員等が参加し、単なる報告事項だけでなく双方向に議論し、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区の担当職員とは、相談や情報の交換を行い連携を取り、協力関係が築けるよう取り組んでいます。	区の担当者とは分からないことがあれば電話で問い合わせたり、市に出向き助言を得たり、ホームの状況を積極的に伝えている。生活支援の担当者とも頻りに話し合う機会を作っている。地区のグループホーム会を開催し、互いに研鑽している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロへ取り組むための外部研修に参加するとともに、内部研修も行い管理者・全職員が身体拘束廃止に取り組んでいます。	身体拘束を行わないことを明示し、身体拘束ゼロの運営を続けている。身体拘束のマニュアルを整備し、職員会議時も含め、年4回の研修を実施し、職員の共有を図っている。玄関は内鍵となっており、自由に出入りできるが利用者の状況を把握し、見守りしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者虐待防止研修を行い、虐待とは何かを学ぶ機会を設け、お互いがチェックし合える関係を築いています。職員のストレスケアに年2回の親睦会や日帰り旅行等でストレスのためない職場環境づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の活用や安心サポート利用の必要性を話し合い活用できるよう支援しています。地域包括支援センターの職員と連携を取り必要時は制度を活用できる体制にあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書・重要事項説明書で、ご利用者、ご家族にご理解、納得して入居していただけるよう努めています。解約時も十分な説明を行いご理解・納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置・運営推進会議でご利用者、ご家族のご意見・要望を伺える機会をつくり、運営に反映させています。	家族がいる方には3か月ごとにホームの生活状況を詳細に記入し、家族に郵送し、家族からの返信につなげている。家族の訪問時にも意見や要望を聞くようにしている。家族がいない場合は利用者本人本位に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設改善会議・職員会議等で、職員からの意見・要望を聞き、議題に上がった意見・要望を管理者会議で取り上げ改善に反映させています。	職員の異動が少なく、基幹職員(管理者・主任・介護支援専門員)の意思疎通が良く、施設改善会議・職員会議・フロア会議を通じ全職員が意見や要望を言い易い環境を作っている。ケアマネジャーの資格者(4人)が多いのも特徴である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるよう職場環境をつくり、非常勤職員もスキルアップできる研修へ参加できる機会を設けやりがいが持てるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の自主的な研修が受けられるよう、勤務時間内で研修を受け、働きながらスキルアップできるよう支援しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西成区グループホーム連絡会をつくり、管理者・職員が他の施設の活動を学ぶ機会を設け、自己のサービスの質の向上ができるよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問を行い、ご家族やケアマネからご本人・ご家族が困っていること、不安なこと等を聴き、入居後安心して生活ができるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご本人・ご家族が見学に来ていただき、事前に不安や要望を聴き、よりよいサービスができるよう関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの導入段階で、ご本人・ご家族の意向を把握し、必要とされているサービスを見極め、自己のホームへの入所だけでなく、他の施設への入所の橋渡しもできるよう支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らすという意識を持ち、ご利用者の経験から学び、ご本人が一方的に介護されているという立場におかず、お互いが支え合っている関係が築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人・ご家族の思いを受け止め、共にご本人を支え、ご本人に満足していただける介護ができるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の面会も多く、気軽に来て頂けるよう心がけ、馴染みの関係が途切れないよう支援しています。	元仕事の仲間や近隣の知人等、馴染みの人が訪問している。ホームは歓迎し、関係が途切れないように支援している。車を使い、昔住んでいた場所の見学や近隣のスーパーでの買い物及び理髪店等の利用が馴染みの場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士がお互い支え合い、助け合える関係が築けるよう職員が関わり、共に楽しく暮らす生活ができるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じ相談・援助ができる体制をつくり、契約終了したご家族から新たな入所の方を紹介していただき相談・援助に繋がっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の意向を普段の会話の中から聴き取りケアに活かし、思いの伝える事ができないご利用者には、ご本人の様子、状態を観察し、ご本人の視点に立ったケアができるようカンファレンスを通話し合っています。	利用時のフェースシートで過去の生活歴等を把握している。阪神ファンの方には京セラドームに行き応援する等、思いに添った支援をしている。利用後も利用者との傾聴や家族との繰り返しの話し合いからどのように暮らしたいか、何をしたいか等を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や暮らしを把握し、その人らしい暮らしの尊重に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調を把握し、一人ひとりが自分のペースで生活できるよう支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者との日々の関わりの中で、よりよく暮らすためのケアのあり方を、ご家族・医師・看護師職員と話し合い情報を共有し、現状に即した介護計画づくりに反映させています。	その人らしく暮らし続ける為に、日々の状況を記録し、フロア会議等で話し合い、3か月ごとにモニタリングを実施し、現状に沿った介護計画作成につなげている。短期6ヶ月ごとに計画の見直しを実施し、家族の承認を得ている。急変時には即、対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別に記録し、排泄・水分・バイタルチェック表を作成し、正確に記録し職員間で共有しています。フロア会議・職員会議・カンファレンス等で話し合い、個々のケアの見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や緊急時対応には、ご本人・ご家族の意向をふまえ柔軟に対応しています。状況や意向が変化した時も、できる限りのサービスが行えるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通し、地域の情報など交換しています。地域防災訓練・地域行事への参加、自治会の加入、近隣スーパー・商店街の買い物等で交流を図っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体病院からの月2回の往診、週1回の看護師の訪問、週1回の歯科往診で医療との連携を図っています。専門外医療は通院同行し適切な医療が受けられるよう支援しています。	月2回、法人の内科医の往診を受けると共に医療連携に基づき、毎週看護師のチェックを受けている。歯科医は歯科衛生士と毎週訪問され口腔ケアや必要に応じた治療を行っている。過去の眼科や泌尿器科等の専門医にはホームが通院支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体病院の看護師を通し、日常の体調の変化や近況の報告を伝え、異常の早期発見と緊急時の対応、緊急時は常に連絡できる体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の病院へは医療面の情報だけでなく、日常的生活状況を伝え、安心して治療が受けられるよう支援し、入院中もご家族、病院と連絡をとり早期退院に向けた支援を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族から看取りに対する指針を作成、説明し同意書を取っています。終末期のあり方については、ご本人、ご家族の意向を尊重し医療関係者、職員、ケアマネと共にチームで支え取り組んでいく体制を整えています。	早い段階から看取りに対する指針書に基づき、家族に説明し、同意を得ている。職員には看取りの研修を実施し、職員の共有を図っている。今までは家族の意向も含め、病院へ移っていた。	最近の家族の意向は延命治療を望まない方も多く、夜間を含めて職員の不安を支援しつつ、管理者・主任等が中心となり、経験を積み重ねることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備え、社内研修で初期対応ができるよう周知徹底しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施し、内1回は消防署立ち合い訓練を行っています。非常食・飲料水・非常持ち出し袋を備えています。	年2回、消防避難誘導訓練を実施し、所轄消防署から指導も受けている。災害時に於ける地域住民の避難場所として話し合ったり、協力体制を依頼していると共に隣人がホームの地主なので心強い。南海トラフ時の地域の大掛かりな防災訓練に管理者は参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の気持ちを尊重し、さりげない声かけ、プライバシーを損ねない言葉かけを職員は心がけて対応しています。	職員はプライバシーを損ねる言葉使い等に気づいた時は互いに注意し合うようにしている。接遇研修を実施し、ホームは利用者1人ひとりを尊重した同性介助を支援したり、信頼関係を前提としたケアサービスを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、一人ひとりのペースを大切に、自分で決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムに合わせた支援ができるよう取り組み、その日どのように過ごしたいか希望に添えるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の趣味・趣向を理解し、清潔に配慮しおしゃれが楽しめるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は3食手作りでいき、ご利用者の要望を取り入れた献立やご利用者と職員と一緒に準備・片付けを行っています。食を楽しんで頂けるよう支援しています。	食材調達・調理・盛り付け・配膳・片付け等、食事一連の作業に対し、利用者は出来る範囲で参加し、音や匂いを感じながら美味しい出来立ての料理を職員は提供している。父の日・母の日等の行事食や外食も実施し、利用者は楽しんでいる。庭には菜園も作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に食事量・水分量を記録し、一人ひとりの嚥下の状態を把握し、食べて頂きやすい形状にしています。水分がとれにくい方にはトロミ水やお茶ゼリー等で対応し、栄養バランスの良い献立にしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の訪問歯科診療の指導により、毎食後口腔内ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ・誘導を行っています。できるだけトイレでの排泄を目指し、オムツ対応の方も日中は二人介助でトイレで排泄ができるよう支援しています。	職員は排泄パターンを把握し、日中はさりげない誘導でトイレでの自立排泄につなげている。ホームは羞恥心や不安が起こらないような排泄支援を心掛け、夜間時は睡眠妨害にならないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日テレビ体操を日課としています。食材の工夫や水分の摂取で便秘の解消を心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に沿って入浴していただいています。入浴を楽しんでいただけるよう香りの違う入浴剤や季節風呂等で拒否される方へも入っていただけるよう工夫しています。	週3回、個浴での入浴ができるように支援している。ホームは午前・午後等の制限はなく、利用者の希望に沿った時間に入浴出来るように支援している。ゆず湯や入浴剤も使用し、入浴を楽しんだり、拒否する方への工夫としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態を観察し、その人に合わせ安眠できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的・副作用は医療連携医師・看護師から指導を受け、服薬チェック表を活用し、誤薬・飲み忘れなどが無いよう確認し服用していただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴・趣味・得意とすることを把握し、ホーム内での役割をつくり活用できるよう支援しています。レクリエーション・散歩・買い物・行事等で気分転換していただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望を聴き、散歩や買い物同行支援をしています。阪神戦を楽しみにされている方に京セラドームへ観戦にも出かけています。	玄関前から道路までの車庫等がある広い空間での日光浴や近隣を散歩することを年間を通じ、日課的な外出として支援している。買い物や外食及び法人4施設合同の遠足等も行い気分転換や五感刺激の外出となっている。個別の希望に沿った外出も支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望の店への買い物に同行し、清算ができるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話の取り次ぎや友人との交流がとぎれないよう支援しています。アメリカ在住のご家族からは毎日のように電話連絡があり楽しみとされています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム駐車場内は安全な広いスペースがあり、バーベキューをしたり、弁当やおやつを外で食べ楽しんでいただいています。共有スペースは明るく開放感があり、清潔で家庭的な居心地の良い場所になるよう工夫しています。	居間兼食堂はゆったりと広く、ソファ等も置き、居心地良く過ごせる共用空間となっている。壁には季節を感じる手作りのカレンダーが飾られている。トイレ・浴室・玄関・廊下も含め、ホーム全体が清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置き、くつろげる空間を作り、玄関先には縁台でご利用者同士が外の空気に触れながら雑談できる場所があります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご利用者が使い慣れた家具や小物、写真が置かれ、居心地良く過ごされるよう工夫しています。	使い慣れた家具や置物やテレビを持ち込み、阪神カラー色一杯の居室等1人ひとりの好みに沿った居室作りを家族・職員が皆で支援し、家庭と変わらない居室となっている。開設12年前から利用している女性は元気で介護度が殆ど変わらない方もおり、ホームのレベルを感じる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動できる手すりの設置、トイレ、居室はわかりやすい工夫をしています。		